

# 奈良県感染症情報

令和4年 第27週(7月4日～7月10日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:074-417-3183

## 今週の概要

- 新型コロナウイルスの追加接種について
- 6月報月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県	
		定点当たり	増減
1	感染性胃腸炎	5.12 (5.71)	→
2	RSウイルス感染症	1.79 (0.94)	↑↑
3	咽頭結核膜炎	0.56 (0.50)	↗
4	突発性発しん	0.50 (0.56)	↗
5	手足口病	0.21 (0.18)	↗

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓↓減少

### ◆ 県内概況(新型コロナウイルス関係) ◆

第27週の新型コロナウイルス新規感染者数は2739名と、第26週の987名から急速に増加しています。これら3連休や夏休みなどを迎え、接触の機会が増えること等が予想されます。県民の皆様には感染のリスクを低減するため、基本的な感染対策と日頃の体調管理に注意していただきますようお願いいたします。

### ◆ 県内概況(その他の感染症) ◆

先週に引き続きRSウイルス感染症が増加しています。例年より立ち上がり早い段階でピークが高くなる予兆か、今後の変化に注意が必要です。RSウイルスに初めて感染・発症した場合は症状が重なりやすいといわれており、特に乳児期早期に初感染した場合は、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。咳が出るなどの症状がある人との接触を避けることが乳幼児の発症予防に繋がります。また、おもちややみすみ等の消毒、手洗いを心がけましょう。

### ◆ 新型コロナウイルスワクチン接種について ◆

新型コロナウイルス新規感染者数が全国的に上昇しており、奈良県においても新規感染者数が増加しています。

○初回/免疫(1・2回目接種)によるオミクロン株感染に対する感染予防効果や発症予防効果は著しく低下します。3回目接種によりオミクロン株感染に対する感染予防効果、発症予防効果、入院予防効果が回復すると報告されています。

C14回目接種については、重症化予防を目的として、60歳以上の方と、重症化リスクの高い基礎疾患を有する方、その他重症化リスクが高いと医師が認める方を対象として開始されています。

対象の方は、早めのワクチン接種をご検討ください。

【公費(無料)で受けられる期間】

令和4年9月30日までの予定です。

詳細については、下記の参考URLからご覧ください。

参考 ● 追加接種(3回目接種)についてのお知らせ(厚生労働省)

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/sitemap/vaccine/booster.html>

● 広域ワクチン接種会場【追加接種(3回目・4回目)】特設ページ(奈良県)

<https://www.pref.nara.jp/300294.htm>

出典: 厚生労働省 HP

<https://www.mhlw.go.jp/content/0006363168.pdf>

# 奈良県感染症情報

令和4年 第28週(7月11日～7月17日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:074-417-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報
- 病原体(ウイルス)検出情報(6月)

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県	
		定点当たり	増減
1	RSウイルス感染症	4.03 (1.79)	↑↑
2	感染性胃腸炎	3.88 (5.12)	→
3	手足口病	0.56 (0.21)	↑↑
4	咽頭結核膜炎	0.38 (0.56)	↘
5	突発性発しん	0.32 (0.50)	↘

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓↓減少

### ◆ 県内概況(新型コロナウイルス関係) ◆

第28週の新型コロナウイルス新規感染者数は6507名と、第27週の2739名から急激に増加しています。県民の皆様には、引き続き基本的な感染対策の徹底を心がけて、いただくようお願いいたします。

### ◆ 県内概況(その他の感染症) ◆

先週に引き続きRSウイルス感染症の報告が増加しており、特に中和保健所管内で多く報告されています。感染予防のため、日頃からこまめな手洗い、マスクの着用を心がけましょう。

### ◆ 小児科外来情報 ◆

#### 北郡地区(田中小児科医院)

RSウイルス感染症は依然多い、幼児例がほとんどであった。

アデノウイルス感染症は減少した。

COVID-19の陽性率が高い。2回接種済みの学生では、発熱期間は1日程度だが咳が強く出ている。幼児例では発熱期間は1日がほとんどであった。

#### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

発熱例、COVID-19陽性例が増増。前日に陰性で翌日陽性確認例もある。

家族全員発熱例も多。症状は軽症経過。

(奈良県は、みよし陽性扱い不可のため、確定に近い濃厚接触者、自宅キッズ陽性例も医療機関で再検査が必要な点、現行の体制では逼迫の懸念がある。)

その他、感染性腸炎が少し。

#### 南郡地区(奈良県総合医療センター小児科)

COVID-19感染症が急増している。小児では初日の高熱での熱性けいれんがみられる。一部発熱遷延例もあり。

アデノウイルス咽頭炎の流行が続く。また手足口病が増加、発疹出現前に高熱あり、また発疹も上下肢・

体幹・口内・口周囲と広範囲に出ている。

### ◆ 病原体(ウイルス)検出情報(令和4年6月) ◆

検出病原体	北郡	中部	南郡	その他	臨床診断名
ヒトヘルペス	7	1			発疹症(1)

ウイルス分離判定日の集計結果

感染症発生動向調査に基づき、新型コロナウイルス対応のため、医療機関より提供いただいた検体の検査が遅延しております。

# 奈良県感染症情報

令和4年 第29週(7月18日～7月24日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0741-47-3183

## 今週の概要

- サル痘について

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減(前週)			
1	RSウイルス感染症	5.15	(4.03) ↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	3.62	(3.88) ↓	↓	↓	↓
3	突発性発しん	0.38	(0.32) →	↔	↔	↔
4	手足口病	0.29	(0.56) →	→	↔	↔
5	咽頭痛発熱	0.15	(0.38) ↓	↓	↓	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↔**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

### ◆ 県内概況(新型コロナウイルス関係)

第29週の新型コロナウイルス新規感染者数は9410名と第28週の6507名から急激に増加しています。また、当センターにおける遺伝子解析の結果、BA.5系統が多数検出されています。BA.5系統は感染者数が増加しやすいことが特徴であることから、感染拡大が続くことが懸念されます。

奈良県では、ウィズコロナを念頭に、事態に即した対策を行うことにより、感染症予防と社会経済活動の正常化を目指します。

夏休みのシーズンに入りました。県民の皆様には、充実した日常生活を送るために、基本的な感染防止策の継続をお願いいたします。

### ◆ 県内概況(その他の感染症)

RSウイルス感染症の報告が増加しています。RSウイルス感染症は、2歳までにほぼ100%の乳幼児が少なくとも1度は感染するとされています。症状としては、軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々ですが、乳児早期に初めて感染発症した場合は重くなりやすいといわれています。そのため、特に乳児早期のお子さんがかかりやすい場合には、感染を避けるための注意が必要です。

### ◆ サル痘について

【サル痘とは】  
サル痘はウイルスによって感染する病気です。一般的には発熱や発疹(ほっしん)、リンパ節のはれ等の症状がみられます。

【症状】  
体の部位に関係無く、発疹や水ぶくれなどが発現します。  
その他、発熱、頭痛などの症状が見られる場合があります。  
水ぼうそうなどの他の発疹を生じる病気との区別が難しいことがあります。

【感染経路】  
主に感染した人や動物の皮膚の病変・体液・血液・唾液に接触した場合(性的接触を含む)、患者と近くで対面し、長時間の飛まつにさらされた場合、患者が使用した寝具等に接触した場合等により感染します。

【疑い症状がある場合】  
サル痘を疑う症状が見られた場合、最寄りの保健機関と相談してください。保健機関を受診する際には、マスクの着用や発疹部位をガーゼなどでおおう等の対策をした上で受診してください。

参考: サル痘について(厚生労働省)  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakuisuite/koumou/kouhou/kekkaku-hansenshoubou19/monitoryok\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakuisuite/koumou/kouhou/kekkaku-hansenshoubou19/monitoryok_00001.html)

# 奈良県感染症情報

令和4年 第30週(7月25日～7月31日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0741-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減(前週)			
1	RSウイルス感染症	5.29	(5.15) ↑	↑↑	↑↑	↓
2	感染性胃腸炎	3.18	(3.62) ↓	↓	↓	↑↑
3	手足口病	0.94	(0.29) ↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
4	ヘルパンギーナ	0.38	(0.06) ↑↑	↑↑	↑↑	↓
5	突発性発しん	0.26	(0.38) ↓	↓	→	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↔**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

### ◆ 県内概況(新型コロナウイルス関係)

第30週の新型コロナウイルス新規感染者数は13530名と、5週連続で増加しています。当センターにおける遺伝子解析の結果では、感染力が高いとされているBA.5系統の検出割合が高くなっています。8月になり暑い日が続きますが、県民の皆様には、熱中症に注意しながらリズクに応じた感染対策の徹底を引き続きお願いいたします。

### ◆ 県内概況(その他の感染症)

先週に引き続きRSウイルス感染症の報告が増加しており、特に中和保健所管内で多く報告されています。また、夏に多い手足口病も増加してきました。感染予防のため、日頃からこまめな手洗いを心がけましょう。

### ◆ 小児科外来情報

#### 北部地区(田中小児科医院)

RSウイルス感染症が多い。今までは2歳以上がほとんどであったが、この一週間は1歳以下が増加し、1か月と2か月の乳児は管理入院となった。

乳幼児の新型コロナウイルス感染症が増加している。他の感染症は少ない。

#### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

COVID-19陽性例が増加。特に10歳代の発熱例のほとんどが陽性の状況。  
症状は発熱、40度以上の高熱例もある。訴えは頭痛が多く、咳は少ない。  
一回くしゃみ、嘔吐、軟便等の例もあった。

家族内感染の乳幼児例も多し、咳の多いRSウイルス様の例は少なかつた。

#### 南部地区(奈良総合医療センター小児科)

COVID-19 感染症は増加している。発症1日目に高熱、咽頭痛、頭痛、関節痛等でインフルエンザ様。2日目に降は呼吸器症状が主となっている。

アデノウイルス胃腸炎、咽頭炎は減少、手足口病が増加している。発疹、水痘が非典型的で病初期は鑑別にくい例もあり。

遷延する呼吸器症状ではラインフルエンザ1型、ライウイルス、RSウイルス、ヒトメタニューモウイルスが検出された。

# 奈良県感染症情報

令和4年 第31週(8月1日～8月7日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0741-47-3183

## 今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(7月)
- 性感染症について

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	RSウイルス感染症	5.35	(5.29) ↑	↗	↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	2.38	(3.18) ↓	↘	↘	↘
3	手足口病	1.29	(0.94) ↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
4	ヘルパンギーナ	0.41	(0.38) ↑	↑↑	↑↑	↑↑
5	突発性発しん	0.26	(0.26) ↓	↘	↘	↑↑

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓↓**減少

### ◆ 県内概況(新型コロナウイルス関係)

第31週の新型コロナウイルス新規感染者数は15061名と6週続けて増加しています。  
 夏休みとなり、往來の機会も増えますが、感染拡大の防止のため、ふだん同居していないメンバーとの活動は、交通機関や車による移動でも注意し、飲食はきちんと感染対策をしている店舗で行いましょう。

### ◆ 県内概況(その他の感染症)

RSウイルス感染症及び手足口病の報告が多い状態が続いています。感染予防のため、こまめな手洗いを願います。

### ◆ 病原体(ウイルス)検出情報(令和4年7月)

※ウイルス分離判定日での集計結果

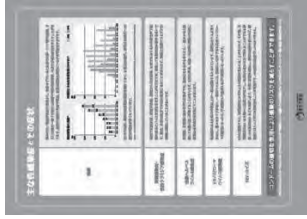
検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名
ムンプス	B	I			流行性耳下腺炎(1)

感染症発生動向調査において、新型コロナウイルス検出のため、医療機関より提供いただいた検体の検査が継続しております。

### ◆ 性感染症について

国内での性感染症は増減を繰り返していますが、数年前から梅毒の感染報告が急激に増加しています。性感染症(STD)には自覚症状が乏しいことが多く、感染に気付かず人に感染させる恐れがあります。免疫が出来ない病気が多いので、何度でも感染することがあります。治療すれば治りますので、医療機関で受診・治療すること、コンドームの適切な使用により感染のリスクを減らすことが出来ます。信頼できる情報源から正しい知識を得て感染対策をお願いします。

※例えば厚生労働省  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/seikansenshou/index.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/seikansenshou/index.html)



厚生労働省HP  
[https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/seikansenshou/di/poster\\_jan\\_senshou.pdf](https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/seikansenshou/di/poster_jan_senshou.pdf)

# 奈良県感染症情報

令和4年 第32週(8月8日～8月14日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0741-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	RSウイルス感染症	3.50	(5.35) →	↘	→	↑↑
2	感染性胃腸炎	1.85	(2.38) ↓	↘	↘	→
3	手足口病	0.91	(1.29) ↗	↑	↗	↘
4	ヘルパンギーナ	0.29	(0.41) ↗	↑↑	↘	↘
5	突発性発しん	0.24	(0.26) ↓	↘	↗	↘

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓↓**減少

### ◆ 県内概況(新型コロナウイルス関係)

第32週の新型コロナウイルス新規感染者数は15155名と、先週に引き続き非常に大勢の方が感染している状態が続いています。お盆に往來の機会があった方も多いため、体調の変化に注意してください。熱中症対策として、屋外で互いに十分な距離が取れる場合はマスクなしで、こまめに適度な水分・塩分補給に気を配ることも必要ですが、基本的な感染対策も引き続き行ってください。

### ◆ 県内概況(その他の感染症)

先週よりやや減少したものの、RSウイルス感染症と手足口病の報告が多い状態が続いています。インフルエンザの報告もありました。感染予防のため、日頃からこまめな手洗いやうがい、習慣をつけるよう心がけましょう。

### ◆ 小児科外来情報

#### 北部地区(田中小児科医院)

夏休み休診及び臨時休診のため、RSウイルス感染症と新型コロナウイルス感染症の発生以外に外来情報がありません。

#### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

コロナ陽性者増加、発熱患者の殆どがCOVID-19陽性で、その殆どが家族内感染している。症状は短期の高熱、のどの痛みで鼻・咳は多くない。

その他、夏風邪様相が僅か。

#### 南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

COVID-19感染の流行が続いている。アデノウイルス咽頭炎、扁桃炎、咽頭結膜熱や手足口病、ヘルパンギーナも流行中。

低年齢層でRSウイルス感染も多く、症状も強く要入院例がみられる。

他にライノウイルス気管支炎、パラインフルエンザ感染症、ヒトメタニューモウイルス感染症も散見され、すべてCOVID-19との鑑別が必要となっている。

# 奈良県感染症情報

令和4年 第33週(8月15日～8月21日)  
奈良県感染症情報センター(奈良保健研究センター)  
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:074-47-3183

## 今週の概要

- ◆ 新型コロナウイルス感染症自宅療養からの療養解除期間について

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	RSウイルス感染症	3.15	(3.50) ↓	↘	↘	↗
2	感染性胃腸炎	1.79	(1.85) ↓	↘	↘	↘
3	手足口病	1.29	(0.91) ↑	↗	↗	↘
4	突発性発しん	0.21	(0.24) ↓	↘	↘	↘
5	ヘルパンギーナ	0.21	(0.29) ↓	↗	↘	→

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)  
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓↓減少

### ◆ 県内概況(新型コロナウイルス関係)

第33週の新型コロナウイルス新規感染者数は18463名と8週連続で増加しており、特に最近4週間は10000名を大きく超えています。8月21日時点での感染者数(現時点で感染している人)は4万人を超えており、大規模な感染拡大状態が続いています。

学校では新学期が始まる頃となり、当面感染者数が多い状況が続くことが予想されますが、感染時の症状低減のため、接種可能な方は早期のワクチン接種を推奨します。

### ◆ 県内概況(その他の感染症)

中部地域のRSウイルス感染症の報告が減少傾向ですが、依然としてRSウイルス感染症や手足口病の報告が多い状態です。インフルエンザも、数少ないですが報告されています。こまめな手洗いの習慣を心がけましょう。

### ◆ 新型コロナウイルス感染症自宅療養からの療養解除期間について

新型コロナウイルス感染症で自宅療養された場合の療養解除についてですが、症状の有無により異なります。厚生労働省公報誌「厚生労働」2022年3月号新型コロナウイルス最前線の内容を掲載します。原文は下記URLよりご確認ください。(各事業所で基準を設けられている場合はそちらを参照してください)

- ◎ 症状がある場合  
発症日(症状が出現した日)から10日以上かつ症状が軽快して72時間経過後(または症状軽快後24時間以上空けて2回PCRなどの検査を行い陰性だった場合)に療養解除となります。
- ◎ 症状がない場合  
検体採取日から7日経過後に療養解除となります。
- ◎ 無症状者に途中で症状が出た場合  
当初無症状の人であっても、途中で症状が出現してしまったり、発症から10日間は感染性があるとされているため、発症日が起算日になります。療養解除については、保健所の指導に従ってください。

※療養解除の基準は変更される可能性があります。

参考: 公報誌「厚生労働」2022年3月号新型コロナウイルス最前線 (厚生労働省HP)  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/houhoukouhou/koubou-shuppan/irazensho/202203\\_00004.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/houhoukouhou/koubou-shuppan/irazensho/202203_00004.html)

# 奈良県感染症情報

令和4年 第34週(8月22日～8月28日)  
奈良県感染症情報センター(奈良保健研究センター)  
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:074-47-3183

## 今週の概要

- ◆ 小児科外来情報

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	2.03	(1.79) ↓	↘	→	↘
2	手足口病	1.88	(1.29) ↑	↗	↗	↘
3	RSウイルス感染症	1.62	(3.15) ↓	↘	↘	↘
4	ヘルパンギーナ	0.41	(0.21) ↑	↗	↗	→
5	突発性発しん	0.26	(0.21) ↓	↗	↘	↘

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)  
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓↓減少

### ◆ 県内概況(新型コロナウイルス関係)

第34週の新型コロナウイルス新規感染者数は18070名で先週から横ばい状況です。新型コロナウイルス感染症の患者の検体について、当センターのゲノム解析結果により、オミクロン株の一種である、「BA.2.75系統」が県内患者の検体で初めて確認されました。オミクロン株「BA.2.75系統」に対する、感染防止対策や療養基準については、現在感染の主流であるオミクロン株「BA.5系統」と同様です。

### ◆ 県内概況(その他の感染症)

RSウイルス感染症は減少しています。手足口病の報告が北部と中部で増加しています。集団生活が再開する場面も多くなりますので、感染予防のため、こまめな手洗いやうがいの方がいい方法について再度確認しましょう。

### ◆ 小児科外来情報

#### 北部地区(田中小児科医院)

COVID-19感染症は減少傾向にはない。RSV感染症は減少したが、hMPV感染症が増加してきた。ただし迅速検査キットが手に入らないため確定診断が出来ない。

初期に発熱だけの手足口病があり、鑑別診断が必要になっている。

#### 中部地区(岡本内科ともクリニック)

COVID-19陽性例が特続、特に小児に多い。  
症状は短期の高熱、咽頭痛、頭痛が多い。  
咳嗽のひどい例や呼吸困難の例は今のところ見られない。  
嘔吐を伴う感染性腸炎様の例もあった。  
RS 様例は減少。手足口病はなかつた。

#### 南部地区(奈良総合医療センター小児科)

COVID-19 感染症の流行が続いている。接触歴のない人でも陽性となり、無症状患者も相当数陽性者がいると思われる。小児では高熱が多く、熱性けいれん、食物摂取困難による脱水症、クルーズの併発がみられた。

手足口病、アデノウイルス咽頭炎は減少してきた。RS ウイルスの流行はまだみられている。胃腸炎も減少してきた。

# 奈良県感染症情報

令和4年第35週(8月29日～9月4日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:074-47-3183

## 今週の概要

- 8月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)
- 病原体(ウイルス)検出情報(8月)
- 感染経路について

### ◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	2.09	(2.03) →	→	→	↑
2	手足口病	1.91	(1.88) ↑	↑	↑	↓
3	RSウイルス感染症	1.24	(1.62) ↓	↓	↓	→
4	ヘルパンギーナ	0.32	(0.41) →	→	→	→
5	水痘	0.18	(0) ↑↑	↑↑	↓	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの**変化** **↑↑急増** **↑増加** **→横ばい** **↓やや減少** **↓↓減少**

### ◆県内概況(新型コロナウイルス関係)◆

第35週の新型コロナウイルス新規感染者数は10525名と第34週の18070名より減少していますが、依然として患者数は多い状況です。感染を再び拡大させないために、県民の皆様へ、引き続き適切な対策をお願いします。

### ◆県内概況(その他の感染症)◆

先週に続いて手足口病の報告が中部と北部で増加しています。手足口病は治った後でも、比較的長い期間、便などからウイルスが排泄されることがあります。排便後やおむつ交換後は手洗いを徹底しましょう。

### ◆病原体(ウイルス)検出情報(令和4年8月)◆

検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名
サイトメガロ			1		突発性発疹・重症重積型二相性麻疹(1)

※ウイルス分離同意日での集計結果

### ◆感染経路について◆

感染経路には、接触感染、飛沫感染、空気感染などがあります。経路に合った感染対策をしましょう。

#### 接触感染(経口感染含む)

手指・食品・器具を介して伝播。最も頻度の高い伝播経路。落下飛沫による接触感染もおおる。

- 主な原因微生物  
ノロウイルス、腸管出血性大腸菌、MRSA、緑膿菌 など
- 対策  
手洗い、手指消毒  
高頻度接触部位(手すり、ドアノブなど)の消毒  
タオルなどを共有しない

#### 飛沫感染

咳、くしゃみ、会話などで伝播。飛沫核は一定時間空中に浮遊するため、同じ空間にいることで感染する。

- 主な原因微生物  
インフルエンザウイルス、ムンプスウイルス、風しんウイルス、新型コロナウイルス など
- 対策  
咳エチケット、三密の回避  
マスクの着用  
ハンカチで口を覆う

#### 空気感染

咳、くしゃみ、会話などで伝播。飛沫核は一定時間空中に浮遊するため、同じ空間にいることで感染する。

- 主な原因微生物  
結核菌、麻しんウイルス、水痘ウイルス など
- 対策  
患者：サージカルマスクの着用  
職員：N95 マスク着用  
十分な換気  
隣居室の利用



参考:厚生労働省 HP [https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_17778.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_17778.html)  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/tisyu\\_hukushi/kyouka\\_kouneishu/kyouka\\_kouneishu\\_13035.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/tisyu_hukushi/kyouka_kouneishu/kyouka_kouneishu_13035.html)

# 奈良県感染症情報

令和4年第36週(9月5日～9月11日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:074-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報

### ◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	手足口病	2.97	(1.91) ↑	↑	↑	↓
2	感染性胃腸炎	2.03	(2.09) →	→	→	→
3	RSウイルス感染症	2.00	(1.24) ↓	↓	↓	↓
4	ヘルパンギーナ	0.38	(0.32) →	→	→	→
5	突発性発しん	0.26	(0.15) →	→	→	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの**変化** **↑↑急増** **↑増加** **→横ばい** **↓やや減少** **↓↓減少**

### ◆県内概況(新型コロナウイルス関係)◆

第36週の新型コロナウイルス新規感染者数は1192名と第35週の10525名より減少していますが依然として多い状況です。引き続き適正な対策をお願いします。

### ◆県内概況(その他の感染症)◆

先週に続いて手足口病の報告が北部と中部で増加しています。手足口病の報告数は例年7～8月にピークを迎えますが、今年は9月になってからも増加しています。この感染症は、幼児を中心に感染が見られ、感染してから3～5日後に口の中や手足などに水疱性の発疹ができます。治った後も比較的長い期間便の中にウイルスが排泄され、また、感染しても発病しないままウイルスを排泄している可能性も考えられることから、日頃からのしっかりと手洗いが大切です。

### ◆小児科外来情報◆

#### 北部地区(田中小児科医院)

発熱患児のコロナ陽性率は減少している。  
RSウイルスは地域的には減少している。  
bMPVの流行が続いていると思われるが、迅速検査キットが入り手ができないため確定診断に至っていない。

サルモネラ腸炎があった。

#### 中部地区(岡本内科子どもクリニック)

COVID-19陽性者が持続、特に小児で多く子供からの家族内感染も多い。  
症状は短期の発熱、時に高熱で重症経過者はなかった。

腹痛、嘔吐例もあるが陰性で感染性腸炎と考えられる例が多かった。  
手足口病が流行、今のところ発疹も少ない軽症経過例が多かった。

#### 南部地区(奈良総合医療センター小児科)

COVID-19陽性者は減少してきている。

また手足口病、アデノウイルス咽頭炎も減少。RSウイルス、ヒトメタニューモウイルス、ライノウウイルスやパライノウイルスI型の流行は続いている。

水痘も散見されているが、胃腸炎の流行はみられていない。

# 奈良県感染症情報

令和4年 第37週(9月12日～9月18日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-17-3183

## 今週の概要

- 結核は昔の病気ではありません

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	RSウイルス感染症	2.94	(2.00) ↑	↑	→	↑
2	感染性胃腸炎	2.03	(2.03) →	→	→	↑
3	手足口病	1.71	(2.97) →	→	→	↑
4	突発性発しん	0.38	(0.26) ↑	→	↑	→
5	ヘルパンギーナ	0.26	(0.38) →	→	→	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの増減 **↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓**減少

### ◆ 県内概況(新型コロナウイルス関係) ◆

第37週の新型コロナウイルス新規感染者数は6088名と第36週の8192名より減少していますが依然として多い状況です。気を緩めず、マスクの着用や換気などの基本的な感染対策に加え、検温など自身による健康状態の確認や、感染リスクの高い場所の利用や会食を避けることなど、自主的な感染予防行動の徹底をお願いします。

### ◆ 県内概況(その他の感染症) ◆

RSウイルス感染症の報告が、北部地域と南部地域で増加しています。体調の変化に注意し、手洗いうがいなどの感染予防対策に努めましょう。

### ◆ 結核は昔の病気ではありません ◆

9月21日～30日は「結核予防週間」です。結核は、今でも年間1万人以上の新規患者が発生し、約2千人が命を落としています。結核患者における高齢者の割合が3分の2以上に上っています。初期の症状はかぜと似ていますが、せき、痰(たん)、発熱(微熱)、倦怠感(体のだるさ)などの症状が長く続くのが特徴です。2週間以上、症状が続くようなら、早めに医療機関を受診しましょう。



- 高齢者だけの病気ではありません
- 若いヒトの感染が増えています。
- 専門学校や医療機関での集団感染が確認されています。
- BCGワクチンの免疫効果は接種後10～15年が限界です。
- 感染・重症化予防に
- 普段から適度な運動、十分な睡眠、バランスのとれた食生活、タバコを吸わないなど、抵抗力を高めておくことが重要です。
- 早期発見・早期治療開始で重症化防止と周囲への感染拡大を防ぐことができます。
- 結核の定期健康診断(胸部レントゲン検査)を欠かさず受けましょう。
- 結核になった場合、症状がなくなるといって服薬を止めはけません。
- 処方された薬は決められたとおりにきちんと最後まで飲みましょう。
- 小児の重症化予防には、BCGワクチン(定期接種)が有効です。

参考: 結核(BCGワクチン)(厚生労働省HP)  
[https://www.nhihs.go.jp/stf/seisakunisuite/huanyu/kenkou\\_jinyou/kenkou\\_kakkekuu-kenkenshon03/in.tex.html](https://www.nhihs.go.jp/stf/seisakunisuite/huanyu/kenkou_jinyou/kenkou_kakkekuu-kenkenshon03/in.tex.html)  
 公益財団法人結核予防会: <https://www.tokho.or.jp/>

# 奈良県感染症情報

令和4年 第38週(9月19日～9月25日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-17-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	RSウイルス感染症	1.79	(2.94) →	→	→	↓
2	感染性胃腸炎	1.35	(2.03) ↓	→	→	→
3	手足口病	1.21	(1.71) ↓	→	→	↑
4	A群溶連菌咽頭炎	0.18	(0.12) ↑	↑	↑↑	→
4	突発性発しん	0.18	(0.38) ↓	→	↓	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの増減 **↑**急増、**↑**増加、**→**やや増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓**減少

### ◆ 県内概況(新型コロナウイルス関係) ◆

第38週の新型コロナウイルス新規感染者数は4254名と第37週の6088名より減少していますが、依然として多い状況です。新型コロナウイルス感染症は、発症しても無症状・軽症の場合が多く、無症状・軽症者からも感染するため、気が付かないうちに感染が拡大してしまっていることがあります。一方で基礎疾患のある方、高齢者では重症化のリスクが高まります。感染拡大を防ぎ、あなたと身近な人の命を守るため、うつらない・うつさない習慣を徹底しましょう。

### ◆ 小児科外来情報 ◆

#### 北部地区(田中小児科医院)

RS 感染症は持続している。兄弟例も多い。  
 高熱に腹痛と下痢の例はCOVID-19の鑑別も必要だが、感染性胃腸炎が多い。  
 腹痛が強い例ではカンピロバクテラ腸炎があった。

#### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

COVID-19 陽性者がまだ多い。特に幼稚園、小学校の小児に多い。成人は減少傾向。  
 学級閉鎖もまだ見られる。手足口病様発疹が散見される。典型例は少ない。  
 他に流行性耳下腺炎、A群溶血性連鎖球菌が1例ずつあった。

#### 南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

COVID-19 陽性者は若干減少してきたが、鑑別対象者は多い。  
 遷延する発熱・咳嗽患者からはヒトメタニューモウイルス、RSウイルスが多く検出される。他にライノウイルス、パラインフルエンザ1型ウイルスも散見される。  
 アデノウイルス咽頭炎、手足口病は減少。水痘が増加してきた。胃腸炎の流行はみられていない。



出典: 厚生労働省 HP  
<https://www.nhihs.go.jp/content/00068713.pdf>

# 奈良県感染症情報

令和4年39週(9月26日～10月2日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0741-47-3183

## 今週の概要

- Withコロナにおいて健康をまもるためにできること

### ◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	1.62	(1.35) →	→	→	→
2	RSウイルス感染症	1.26	(1.79) →	→	→	↑
3	手足口病	0.94	(1.21) ↓	→	→	→
4	ヘルパンギーナ	0.24	(0.18) →	→	→	→
5	突発性発しん	0.15	(0.18) →	→	→	→

発生状況: **大流行** 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの増減 **↑**急増 **↑**増加 **→**横ばい **↓**やや減少 **↓**減少

### ◆県内概況(新型コロナウイルス関係)◆

第39週の新型コロナウイルス新規感染者報告数は3131名と第38週の4254名より減少しています  
 が、依然として多い状況です。  
 感染症法施行規則の改正に基づき、令和4年9月26日(月曜)より、新型コロナウイルス感染症の発生届の対象が65才以上の方、入院を要する方や、妊婦の方などに限定されました。届出対象外の新規感染者の数がについては、医療機関および健康フォローアップセンター等からの日次報告により全数把握を継続しています。  
 今後も、感染拡大を防ぐため、うつらない・うつさない習慣の徹底をお願いいたします。

### ◆Withコロナにおいて健康をまもるためにできること◆

- 健康に関するセルフケアをしましょう  
 新型コロナウイルス感染症流行下においても、毎日ご自身の体調を確認することは健康管理の観点で重要です。
- 重症化リスクをご存じですか？  
 高齢者の方や一部の基礎疾患のある方などは、重症化リスクが高いと考えられます。自分が該当するか、日頃からチェックをしておきましょう。
- 検査キットを選ぶ際の注意点  
 検査キットを用いてセルフチェックを行う際は、医療用または一般用検査キット【(体外診断用医薬品)又は【第一類医薬品】と表示されているとして国が承認したものを使用しましょう。  
 医療用キットは薬局で、一般用検査キットは薬局だけでなく、薬店やインターネットでも購入することが出来ます。  
 インターネット等では「研究用」と称するものが販売されていますが、国で承認されたものではなく、性能等が確認されていません。

詳しくは厚生労働省HP: 新型コロナウイルスについて  
 ([https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000161708\\_000014.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000161708_000014.html))

# 奈良県感染症情報

令和4年40週(10月3日～10月9日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0741-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報
- 9月報(月単位)報告対象疾患(性感染症・葉刺刺性肉芽腫症)の状況

### ◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	手足口病	1.65	(0.94) →	→	→	→
2	感染性胃腸炎	1.56	(1.62) →	→	→	→
3	RSウイルス感染症	1.32	(1.26) →	→	→	→
4	ヘルパンギーナ	0.35	(0.24) ↑	↑	↑	→
5	突発性発しん	0.29	(0.15) ↑	↑	↓	→

発生状況: **大流行** 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの増減 **↑**急増 **↑**増加 **→**横ばい **↓**やや減少 **↓**減少

### ◆県内概況(新型コロナウイルス関係)◆

第40週の新型コロナウイルス新規感染者報告数は1989名と第39週の3131名より減少していますが、依然として多い状況です。感染拡大を防ぐため、県民のみならず、基本的な感染予防対策の徹底を改めてお願いいたします。

### ◆県内概況(その他の感染症)◆

手足口病の報告数が北中部地域と中部地域で増加しています。手足口病の原因ウイルスは複数あるため、一度感染しても再び感染してしまふことがあります。発症した場合には、口の中や喉の痛みから食べ物や飲み物を受け付けず、脱水症状を起こすことがあります。そのような場合には、少量の水を頻繁にとるよう、水分不足にならないように注意しましょう。

### ◆小児科外来情報◆

#### 北部地区(田中小児科医院)

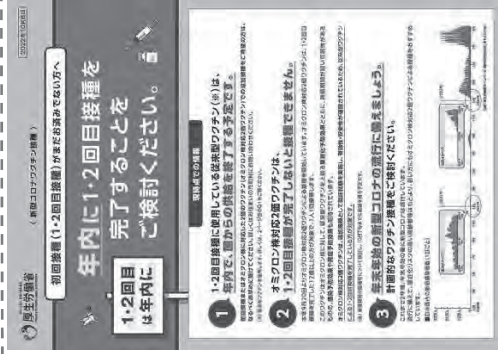
COVID-19の鑑別が必要な発熱患児は、気温が下がってからや増えたが、コロナ陽性例は少なくなりました。  
 RS感染症や手足口病はひかれました。  
 インフルエンザ予防接種の来院が増えています。

#### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

コロナ陽性者は少なくなりましたがまだ続いている。症状は軽症。  
 hMP 肺炎の流行の情報があり咳嗽の頻回の例があるが今のところ陽性者は多くない。  
 RS 流行は減少。感染性腸炎も少ない。他に手足口病が少し。

#### 南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

COVID-19 感染症、RSウイルス感染症は減少している。  
 ヒトタニニューモウイルス感染症の流行は続いている。対症療法で軽快するが、症状は遷延する傾向がある。  
 手足口病はみられなくなりましたが、水痘が散見されている。



厚生労働省HP  
 (<https://www.mhlw.go.jp/contact/0000398478.pdf>)